



2021 年度 NGO 海外援助活動助成 完了報告レポート Vol.1

一般財団法人 ゆうちょ財団
国際ボランティア支援事業部



はじめに

当財団の NGO 海外援助活動助成事業につきまして、平素からご理解・ご支援を賜り有難うございます。

2021 年度の助成につきましては、2021 年 2 月に助成先 10 団体を決定し、1 年間の活動実施を経て、このたび 7 団体から完了報告書を受領しました。これらをもとに各々の活動等の概要をとりまとめましたので、2021 年度「NGO 講演会等助成レポート」とあわせてご高覧いただけますと幸いに存じます。

また、当財団といたしましては、完了報告書を受領した 7 団体について、当初の申請どおり活動が適正に実施されていることを会計面も含め確認いたしましたので、下記のとおり各団体にお支払いしたことをご報告申し上げます。

なお、今回掲載されていない 3 団体の活動につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実施期間を最長 1 年間延長しておりますので、完了報告書の受領後に、別途とりまとめる予定です。

各団体の熱心な活動に敬意を表するとともに、今後のますますの事業発展をお祈りいたします。

2022 年 8 月

一般財団法人 ゆうちょ財団
理事長 小笠原 倫明

2021年度NGO海外援助活動助成団体			最終助成 決定額（円）
J 枠	1	特定非営利活動法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会	680, 000
	2	特定非営利活動法人礎の石孤児院	914, 316
	3	特定非営利活動法人幼い難民を考える会	997, 200
	4	NPO法人YOU&MEファミリー	876, 014
	5	特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン	1, 000, 000
S 枠	6	特定非営利活動法人国境なき子どもたち	970, 000
	7	特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会	985, 985

*J 枠：過去 2 年間の事業収入平均が約 5, 000 万円未満の団体
S 枠：過去 2 年間の事業収入平均が約 5, 000 万円以上の団体

目次

2021年度「NGO海外援助活動助成完了報告レポート」

7団体（50音順）

<J枠>

- 1 特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会 1
- 2 特定非営利活動法人礎の石孤児院 2
- 3 特定非営利活動法人幼い難民を考える会 3
- 4 NPO法人YOU&MEファミリー 4
- 5 特定非営利活動法人ラブリグリーンジャパン 5

<S枠>

- 6 特定非営利活動法人国境なき子どもたち 6
- 7 特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会 7

2021年度「NGO講演会等助成レポート」

1団体

- 1 「NGO講演会等助成レポート」について 8
- 2 特定非営利活動法人地球の友と歩む会 9
- 3 アンケート結果 11

団 体 名：特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会
助 成 活 動 名：最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動
「Mother to Mother」の普及と強化
活 動 地 域：カンボジア王国 シェムリアップ州バンテスレイ郡ルムチェック村
トロピアンブレイ村
団 体 本 部：〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 多摩川幼稚園内
HP アドレス：<https://www.asap-cambodia.org/>
設 立：2007 年

当団体が2009年から取り組んでいる「Mother to Mother」は、「我が子を学校に通わせる収入がほしい」というカンボジアの母親と、「幼稚園や小学校で使う布小物の準備が大変」という日本の母親の「布小物縫製」を通して助け合う取り組みです。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により現地の土産店は閉店、また、日本国内でも対面イベントが中止となり、現地の母親たちの収入に影響を与えました。

2021年度の活動では、母親たちにより布製の筆箱1,000個と通学リュック329個が縫製され、当団体が1個あたり0.5ドルで買い取り、賃金として現地の母親たちへ支払いました。買い取った両製品は、当団体が支援する現地の小学校の新入生及び在校生へ寄贈しました。

筆箱と通学リュックは、日本向けの縫製作業で出る端切れの布を再利用していますが、足りない分は「寄付金付き自動販売機」の寄付分を用いて必要な生地を調達しています。そのため、自動販売機の設置数を増やすことを目標としていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、増設を依頼する機会が得られず、増設には至りませんでした。

また、日本国内の総売上げは前年度より若干下回りましたが、昨年度から力を注いできたネット販売では、前年比5%増となりました。

これらの活動により、カンボジアの縫製担当者である母親22名へ一人当たり平均246ドル/年を支払うことができました。

これまでゆうちょ財団の助成を5年間受け実施してきた活動により、現地での管理体制を構築し、ネット販売への足掛かりを築くことができました。

リュックと筆箱の配布



縫製作業



団 体 名：特定非営利活動法人礎の石孤児院
助成活動名：HIV 孤児のための教育支援
活 動 地 域：ザンビア王国 ルサカ州ルサカ県ルサカ市ンゴンベコンパウンド区
団 体 本 部：〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-14-1 クレインズヒル岩崎 201
HP アドレス：<https://cornerstone.or.jp>
設 立：1997 年

ザンビアには 140 万人の孤児がいると言われています。当団体は、首都ルサカのスラムにおいて、孤児の中でも特に困難な状況に置かれている HIV 孤児(親を HIV で亡くした、または本人も陽性)のための学校を運営し、教育と給食を提供しています。

孤児の家庭の多くは崩壊しており、無収入である上、アルコール中毒や暴力と暴言が横行していることから、子どもたちにとっては学校が唯一の、そして安心して飢えることなく過ごせる居場所となっています。

新型コロナウイルス感染症の影響で経済の悪化、物価の高騰により飢餓が深刻化しており、より多くの孤児を受け入れる体制づくりが必要とされているため、2021 年度は、受け入れを前年の 20 名から 70 名(3 歳児から 7 年生)まで増やしました。新型コロナウイルス感染症の影響により、約 2 カ月間学校が閉鎖されましたが、その期間以外は月曜日から金曜日まで授業を実施し、朝食・昼食を提供できました。

授業では、一人ひとりの学力に応じて柔軟にクラスを変えたことにより、勉強が遅れていた子どもが年齢に応じた学年に追いつくことができました。

また、食べることが子どもに大きな喜びと力を与えており、学校での食事の提供により、子どもたちの表情も明るく活発になりました。

さらに、子どもたちの生活実態を把握するため、必要に応じて家庭訪問をしましたが、虚偽を語られる場合も多かったため、数人から話を聞き実態を理解していくように努めました。

その他に、不足していた教科書、文房具、机、椅子、黒板等を整備しました。

今後はさらに、8 年生以上の受け皿として、中・高等学校の建設を予定しています。

昼食の様子



4 年生の授業の様子



団 体 名：特定非営利活動法人幼い難民を考える会
助成活動名：地域幼稚園への保育教材研修と配布
活 動 地 域：カンボジア王国 コンポンチュナン州 1 市 7 郡の地域幼稚園
団 体 本 部：〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3B
HP アドレス：<https://www.cyr.or.jp/>
設 立：1980 年

当団体は、ひとりでも多くの子どもたちが適切な幼児教育を受けられるよう、教育省や地域行政と連携しながら、絵本等の保育教材を公立幼稚園、地域幼稚園、当団体が支援している「村の幼稚園」へ提供するとともに、保育者への研修を実施してきました。

地域幼稚園においては、2008 年から 2011 年の 3 年間に全国 451 カ所、2014 年から 3 年間で全国 1,000 カ所を対象に実施し、2021 年度は、これ以降に開設された地域幼稚園 153 カ所 164 名の保育者を対象に実施しました。

配布した保育教材は、クメール語で出版した「バナナのはなし」「およぐ」という題の絵本、クメール語の子音パズル、木製車パズル、布人形、布ボールなど 6 種類です。教材は、木や布で作られており、丈夫で破損しても保育者が修理できる素材のため長く使うことができます。

研修では、地域幼稚園のあるそれぞれの郡で、州と郡の教育局幼児教育担当者がトレーナーとなり、保育教材の活用方法を指導しました。これらの保育教材の目的や使い方の指導に加えて、保育教材を使った活動をどのようにカリキュラムに組み込むか等も指導しました。トレーナーからの説明の後には、保育者が実際にこれらの教材を使い、保育者自身も楽しみながら保育教材を使う経験をしました。

今後、153 カ所の地域幼稚園に通う約 3,000 名の子どもたちを対象に保育教材が活用されます。

また、2022 年 2 月には、4 カ所の地域幼稚園を訪問し活用状況を確認しました。保育者たちからは、教材は使いやすく、長持ちし、子どもたちにとっても安全であるとの評価がありました。さらに、絵本の読み聞かせのやり方を現場で実際に指導することができ、保育者の理解が進みました。

教材の目的や使い方の研修



絵本の読み聞かせ



団 体 名：NPO 法人 YOU&ME ファミリー

助成活動名：学校（幼・小・中）における、貧困層生徒の自立を目指したクラブ活動活性化と学校衛生環境の改善

活 動 地 域：バングラデシュ人民共和国 ガジプール県

団 体 本 部：〒340-0043 埼玉県草加市草加 1-3-4

HP アドレス：http://youandmebangladesh.org

設 立：2007 年

当団体が支援している「YOU&ME インターナショナルスクール」は、主に貧困層生徒を対象にし、多様で尊重し合える人材の育成を目指して、子どもそれぞれの才能を活かす教育を取り入れています。

2018 年に女子生徒が親の強制により児童婚をしたことをきっかけに、卒業後の雇用機会の拡大および経済的・社会的自立を目指し、2020 年に洋裁クラブとパソコンクラブを立ち上げました。持続可能な活動となるよう、両クラブでは収益を得ることを目指しています。

2021 年度は、洋裁クラブでは貧困層高学年女子生徒 6～10 年生 12 名を対象とし、毎週木曜日のクラブ活動日を中心に週 6 日、縫製トレーニングを実施しました。当初は、近隣商店で教師と生徒の作品を販売する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、商店が閉鎖され販売交渉ができず販売には至りませんでした。

また、パソコンクラブでは貧困層高学年男女 6～10 年生を対象に、1 回の生徒数を 7 名とした 3 ヶ月間の講座を合計 3 回、毎週木曜日のクラブ活動日を中心に週 6 日トレーニングを実施しました。当初は、夜間大人クラスを開講し、授業料を徴収する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で夜間外出禁止令が出たため開講には至りませんでした。

さらに、学校衛生環境改善では、2 階トイレにタンク、各室シャワー、タイルを設置しました。他にも、新型コロナウイルス感染症感染防止のためにも、石鹸で手を洗う方法を指導し、衛生的な生活の大切さを伝えました。これらの活動により、衛生的な学校環境を整えることができました。

パソコン教室



洋裁クラブ



団 体 名：特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン

助成活動名：コロナ禍 低所得 20 世帯への家畜飼育支援による生計向上

活 動 地 域：ネパール民主共和国 カブレパランチョク郡 パンチカール市 第 2 区
(旧 アナイコット村)

団 体 本 部：〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原 3-18-10

HP アドレス：http://www. lovegreenjapan. org

設 立：1991 年

当団体は、活動地域において、これまで植林事業から代替エネルギーとしてバイオガス装置の導入、環境に負荷をかけない有機農業の普及と支援を展開してきました。

また、低所得で適切な乳牛の飼育が行われていない世帯を対象に、ミルクの品質向上と生産量の増加を目指し支援をしています。

2021 年度は、低所得農家 20 世帯を対象に家畜小屋の餌場を改良し、牛が食べやすい高さの餌台の設置、清掃がしやすいよう床面をコンクリートにする活動を行いました。併せて、専門家による家畜飼育管理研修を 3 日間実施し、22 名が参加しました。

また、当団体が運営する有機農業センターのデモ農場にて栽培した優良牧草を、対象農家に限らず合計 50 世帯の周辺農家へ配布しました。これらの牧草は、農家が自宅周辺に植栽して増やすことができ、栄養価の高い牧草を継続的に牛の餌にすることができます。さらに、対象農家から強い要望があった牧草裁断機を配布しました。これにより牧草を簡単に裁断できるようになり、牧草の固い部分も無駄なく餌にできました。

雨季になる前には、牛の病気を防ぐため、家畜ヘルスワーカーを対象世帯へ派遣し、予防接種や予防薬を配布しました。

これらの活動によりミルクの生産量が増え、収入も増えました。特に牛の餌場を改良したことにより、各世帯で飼育頭数を 1~2 頭増やすことができたことが、生産量の増加に貢献しました。この地区には、旧国際ボランティア貯金の配分金で建設したミルク冷蔵設備があり、各世帯から集められたミルクをこの設備にて低温で保存し、品質を保った状態で首都圏へ供給しています。

改良した牛の餌場



家畜飼育管理研修



団 体 名：特定非営利活動法人国境なき子どもたち

助 成 活 動 名：自立支援施設「若者の家」での危機的状況にいる子どもたちの保護および教育・生活支援

活 動 地 域：フィリピン共和国 マニラ首都圏カロオカン・ノース市

団 体 本 部：〒187-0011 東京都新宿区下落合 4-3-22

HP アドレス：<http://knk.or.jp>

設 立：1997 年

2001 年に開設された「若者の家」では、虐待・育児放棄にあった子どもや路上生活をしていた子どもたちが共同生活を送りながら、スタッフから家庭的な愛情と適切なケアを受けています。そして、学業や様々な活動を通し自信を身につけ、スタッフや他の子どもとの交流を通じて人との信頼関係を築きながら、家庭復帰を目指しています。

2021 年度は、7 歳から 18 歳までの 10 名の男子を受け入れ、衣食住の生活支援に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により外出が規制された中、子どもたちの生活に楽しみが生まれるよう、音楽、読み聞かせ、ダンス、料理教室、アート、スポーツ、映画鑑賞、ハロウィーンパーティー、ガーデニング等の活動を実施しました。

教育支援では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校はオンライン授業及びプリント学習となりましたが、「若者の家」に居住している子ども全員が公教育に登録し、「若者の家」の教員、ハウスペアレントのサポートにより、9 月からの新学期には全員進級することができました。

また、子どもたちの家庭復帰支援においては、家庭訪問や保護者向けのセミナーを実施し、家庭復帰の準備を行いました。さらに、子どもが 1 日家庭に帰る機会と家族が「若者の家」を訪問する機会を設けました。これにより、子どもと家族が家庭復帰を楽しみにしていることをお互いに確認し合うことができました。

その他、行政に働きかけた結果、新たに 1 行政地区が「若者の家」での当該自治体出身の子ども 1 名の受け入れにつき、1 日あたり約 230 円を補助することに同意しました。今後も、子どもたちのケアについて自国の行政が責任を持つよう働きかけていきます。

オンライン授業



屋外でのスポーツ活動



団 体 名：特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会
助 成 活 動 名：家事使用人として働く少女のための支援活動
活 動 地 域：バングラデシュ人民共和国 ダッカ市
団 体 本 部：〒169-8611 東京都新宿区西早稲田 2-3-1 早稲田奉仕園内
HP アドレス：<https://www.shaplaneer.org>
設 立：1972 年

首都ダッカには家事使用人として働く少女が約 11 万人いるといわれています。

当団体は、ダッカ市内で支援センターを運営し、家事使用人として働く少女たちへの支援活動として、教育や職業訓練を提供しています。

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により 4 月～8 月まで支援センターを閉鎖しました。その間、少女たちへ宿題や技術研修の資材を配布し、遠隔で教育と職業訓練を継続しました。9 月からは支援センターを通常どおり再開し、既存の 2 カ所の支援センターに加え新たに開設し、合計 3 カ所の支援センターを運営しました。

各支援センターへは合計 61 名の少女たちが通い、そのうち 75%が簡単な文字の読み書きや計算ができるようになりました。また、バングラデシュの労働法規上条件付きで就労が認められている 14 歳以上の少女たちを対象に、手工芸品作り、美容、縫製、調理、刺繍等の職業訓練を実施しました。そのうち 39%の少女はスナック菓子の販売や、仕立ての仕事で収入を得られるようになりました。さらに、2 名の少女は家事使用人の仕事を辞め、職業訓練で取得したスキルを活かして生計を立てることができるようになりました。

また、子どもの権利や「家事使用人に関する権利および福祉政策」等について、少女たちの雇用主、保護者、自治会メンバーを対象に啓発活動を実施しました。

保護者への働きかけの結果、支援センターに通う少女のうち 17 名が学校に編入することができました。

今後は、3 カ所の支援センターの運営を継続するとともに、最終的には支援センターを各自治会へハンドオーバーできるよう働きかけていきます。

基礎教育の授業



雇用主を対象とした啓発ワークショップ



「NGO講演会等助成レポート」について

当財団では、NGO海外援助活動助成を受けているNGOが、学校、地域団体等で国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該NGOの海外での活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりです。

○助成する金額は、講演会等1回につき所要経費のうち5万円を上限とします。

ただし、助成回数は1団体につき1年1回とします。

○助成の対象とする団体は、NGO海外援助活動助成を受けている団体です。

○助成の対象となる講演会等は、次のとおりです。

- ・参加者（児童・生徒等を含む）が概ね30人以上見込まれる講演会等であること
- ・2021年4月から2022年2月末日までに開催する講演会等であること

○2021年度は1団体へ助成いたしました。

特定非営利活動法人地球の友と歩む会

1. 開催日：2021年6月21日（月）18時～19時30分
2. 開催場所：香川大学法学部ゼミナール室
3. テーマ：「インド、インドネシア農村部での支援事業の成果と課題」
4. 講師：米山 敏裕（当団体事務局長）
5. 参加者：25名
6. 内容：①インド、インドネシア農村部で行ってきた支援事業で、特に有機農業推進による成果と今後の課題について
②有機農業をすすめることの意義と世界的な問題となっている自然環境との関連性、「食と農」について
③インドネシア、バリ島北部での給水事業の成果と今後の展望について

～ ～

講演会内容

■講演概要

香川大学法学部、石井一也教授が担当するゼミ生を対象にしたもので「平和学研究」の一環で国際協力をおこなっている NGO から学ぶということで今回招かれた。教授はマハトマ・ガンディの研究者でもあり、特にインド農村部での開発には関心を持ち受講生も平和、貧困などについて研究活動をしている方々であり、NGO の活動が平和推進にどのように貢献しているのかを紹介する機会となり、受講生も熱心に聴講していた。

当団体がインド農村部でおこなってきた支援活動、主に有機農法による農村開発の成果、課題について、さらに、女性グループによる収入向上プログラム、乳牛飼育、ココヤシ繊維のロープづくりを紹介した。

また、ゆうちょ財団からの助成事業である 2020 年度から開始されたインドネシア、バリ島北部農村部での給水事業について、さらに、2018 年度に同財団からの助成事業であるインドネシア、スンバ島での給水施設建設ならびに有機野菜づくり研修の成果について紹介した。

■参加者の感想

- ・ NGO の存在は知っていたが、どのような支援をしているのかは知らなかったので、とても勉強になった。
- ・ インドやインドネシアの現状や生活について知ることができてよかった。
- ・ 今回、NGO の方の話を初めて聞くことができ、世界の貧困の現実を学んだ。国家間の金銭の支援だけでなく、市民レベルの生活を支える活動が重要だと認識した。
- ・ 私も途上国であるカンボジアを訪れたことがある。今回の講演で発表があった、一方的支援はこちらの価値観を押し付けているだけだとカンボジアを訪れた時に感じた。改めて、現地の人たちが自立していける基盤を作り上げることが重要だと感じた。
- ・ NGO が主にどのような活動をしているのか分からなかったが、今回の講演を聞いて住民等の支援・援助を行っていることを知ることができてよかった。
- ・ 支援はその地の価値観などを考慮しなければ成功しないことを知ることができた。

・インドやインドネシアの現状や活動を知り、日本の生活との違いがよく分かった。富を得られている私たちが、途上国の人々のためにできる事があるのではないかと改めて考えた。

当財団の NGO 海外援助活動助成を受けた活動の概要

■支援活動：①インドネシア東スンバ島の低収入農家のための有機農業技術支援および給水設備整備事業

②水道組合設立および住民主体の持続的な水道事業運営に向けた基盤構築事業

■実施期間：①2018 年 4 月 ～ 2019 年 3 月

②2020 年 4 月 ～ 2021 年 3 月

■実施地域：①インドネシア共和国 東ヌサトゥンガラ州東スンバ県モンドゥランビ村

②インドネシア共和国 バリ州ブレレン県プダワ村

① 「講演の様子」



② 「講演の様子」



2021年度NGO講演会等助成のアンケート集計結果報告書

全体の回答数：25

Q1：開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体(NGO)が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	知っていた	15	60%
2	知らなかった	10	40%
3	未回答	0	0%

Q2：今日の講演を聞いて、内容について理解できましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	よく理解できた	13	52%
2	まあ理解できた	12	48%
3	理解できなかった	0	0%
4	未回答	0	0%

Q3：今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	必要だと思う	23	92%
2	国同士で行うだけで十分	1	4%
3	分からない	1	4%
4	未回答	0	0%

Q4：今日の講演を聞いて、また「現地からの報告」を聞いてみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	聞きたいと思う	15	60%
2	少し思う	10	40%
3	全く思わない	0	0%
4	未回答	0	0%

Q5：今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	すでにしている	3	12%
2	したいと思う	18	72%
3	特に思わない	4	16%
4	未回答	0	0%

Q6：今後もボランティア団体のこのような講演会を支援する助成活動事業は必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	とても必要だと思う	8	32%
2	必要だと思う	16	64%
3	特に思わない	1	4%
4	未回答	0	0%

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答
	40%	28%	16%	8%	8%	0%	0%	0%

男女比	男性	女性	未回答
	56%	44%	0%